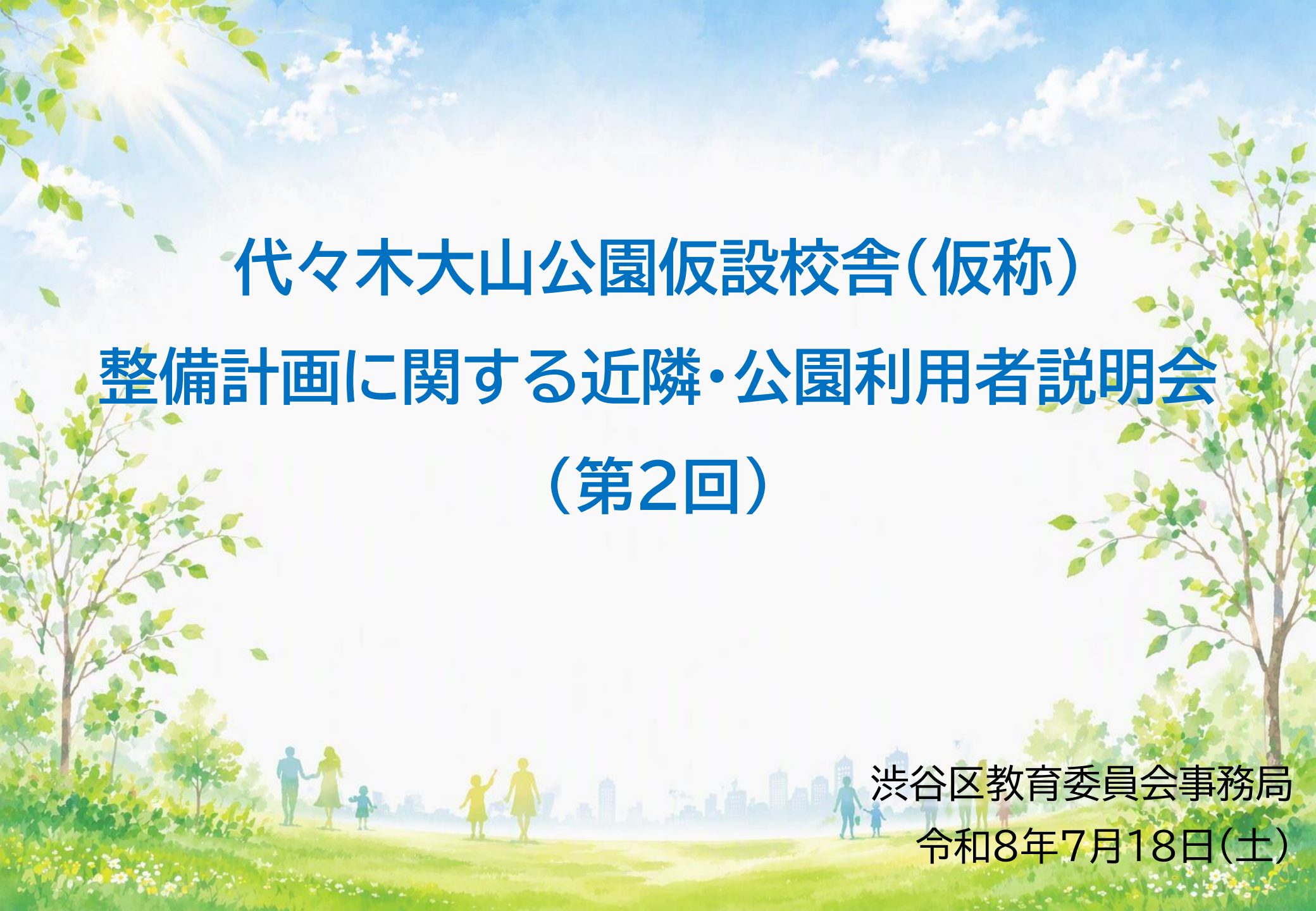




代々木大山公園仮設校舎(仮称) 整備計画に関する近隣・公園利用者説明会 (第2回)

渋谷区教育委員会事務局
令和8年7月18日(土)

1. 開会挨拶・関係者紹介

2. 資料説明

- (1) 6 / 19、6 / 25開催 説明会で頂いたご意見について
- (2) 学校建て替えに対する考え方
- (3) 新たな仮設校舎が必要な理由
- (4) 代々木大山公園への仮設校舎整備が必要な理由
- (5) 公園機能維持の考え方について

3. 質疑応答

4. 今後のスケジュール

1

計画決定プロセスに関するご質問

主なご意見

公園への仮設校舎建設について、決定までの経緯や住民意見の反映方法が分かりにくい。建設ありきではなく計画そのものを議論してほしい。

2

周知・情報公開に関するご質問

主なご意見

計画に関する周知や説明会の案内が不十分であるため、より多くの区民が情報を知り、意見を出せる機会を設けてほしい。

3

教育事業・技術的事項に関するご質問

主なご意見

建て替えの必要性や老朽化の根拠、長寿命化との比較、事業費の妥当性などについて、より具体的な説明をしてほしい。

4

代替地・計画の見直しに関するご質問

主なご意見

代々木大山公園以外の候補地の選定や、学校統廃合・小中一貫教育校化なども含め、幅広い選択肢を検討してほしい。

5

野球場を含む公園機能・価値の維持に関するご質問

主なご意見

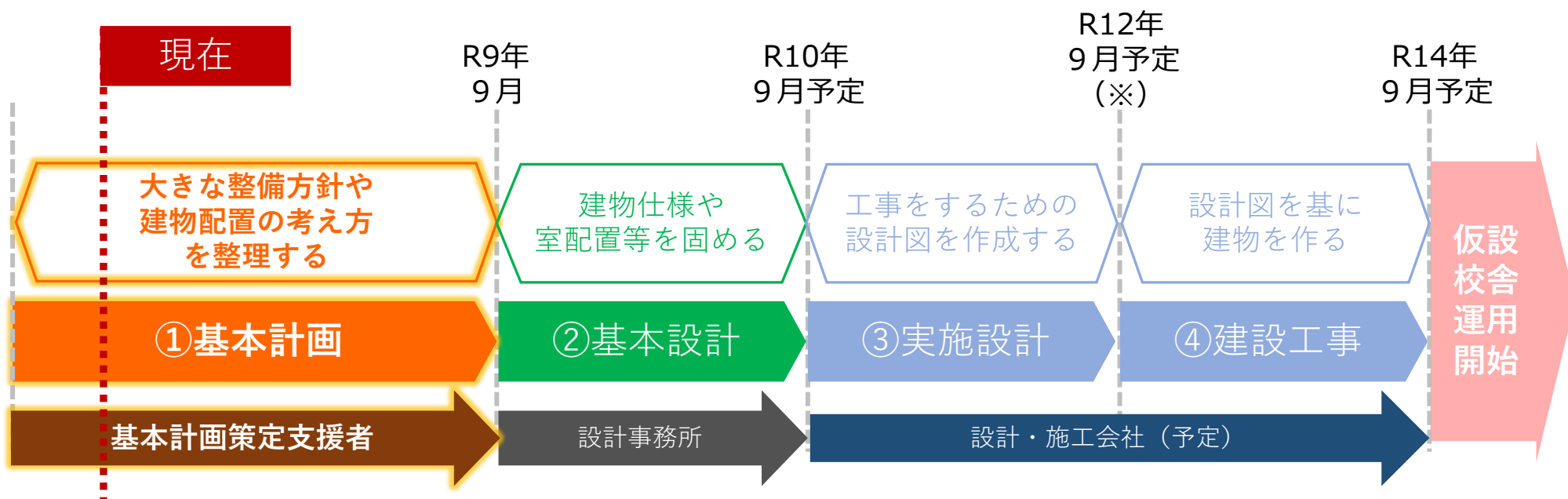
代々木大山公園は、地域にとって重要な憩い・交流の場であることから、広場や緑地、樹木、遊具などの日常的な公園機能を維持するとともに、景観や防災機能への影響にも十分配慮してほしい。また、野球場2面の維持を前提とする根拠を明確に示し、公園全体の利用とのバランスや地域住民への配慮についても十分に説明してほしい。

※詳細なご質問及び回答内容については、渋谷区HP「新しい学校づくり整備方針」をご参照ください。



2. 資料説明（2）学校建て替えに対する考え方

「基本計画」から「建設工事」に至るまでの流れは、下記図の通りになります。
現在は、大きな整備方針や建物配置の**考え方を整理する「基本計画」を策定する段階**で、その検討を進めるにあたり、ご近隣の皆さまや公園を利用される方々に、計画の方向性等をご説明させていただいております。



(※) 解体工事や公園整備等は、仮設校舎建設に先立って先行着手する可能性があります。

2. 資料説明（2）学校建て替えに対する考え方

渋谷区立学校は1960～70年代に建設された施設が多く、**築50年以上の建物が約6割、築30年以上の建物が約8割**を占めるなど、**全体的に老朽化が進んでいます**。

区では、学校施設の目標使用年数を80年とする長寿命化方針を定めていますが、多くの学校では躯体の老朽化が進んでおり、**長寿命化改修を行っても多額の費用が必要となる一方で、使用できる期間も限られる**ことから、経済性や効率性の面で課題があります。

そのため、渋谷区では、学校施設を安全かつ持続的に利用していくため、**築80年を迎える前に順次建て替えを行う方針**とし、令和31年度までに22校を対象とした建て替えロードマップを策定しています。

【図表3-7 築年別整備状況・用途別保有量】より抜粋



【図表5-1-1 建築物の望ましい目標使用年数】

鉄筋コンクリート造 鉄骨鉄筋 コンクリート造	鉄骨造			ブロック造 れんが造	木造
	重量鉄骨		軽量鉄骨		
高品質 の場合	普通の品質の 場合	高品質 の場合	普通の品質の 場合	30～50年	50～80年
80～120年	50～80年	80～120年	50～80年	50～80年	50～80年

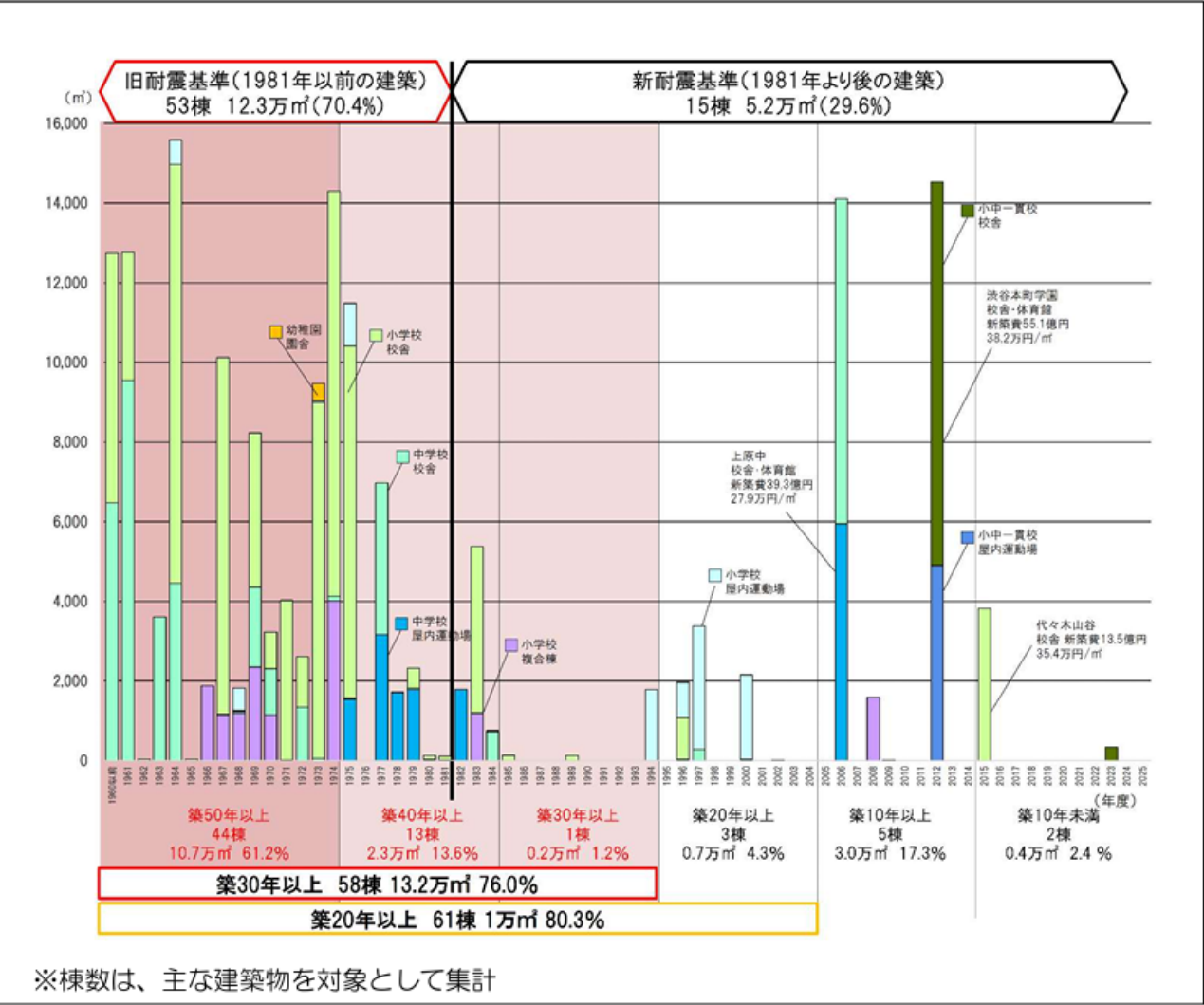
出典：建築物の耐久計画に関する考え方（日本建築学会）

※渋谷区学校施設長寿命化計画より抜粋

2. 資料説明（2）学校建て替えに対する考え方

（参考）学校ごとの劣化状況や老朽化状況

【図表3-7 築年別整備状況・用途別保有量】



校名	対象総面積 (㎡)	最古 築年
広尾小学校・広尾幼稚園	5,730	1932
臨川小学校・臨川幼稚園	5,692	1959
笹塚中学校	7,475	1961
千駄谷小学校・千駄谷幼稚園	5,542	1970
代々木中学校	8,495	1961
鳩森小学校	4,123	1974
西原小学校	6,871	1973
原宿外苑中学校	5,965	1964
松濤中学校	7,193	1956
猿楽小学校	4,855	1961
幡代小学校	6,943	1967
中幡小学校	8,022	1967
加計塚小学校	6,457	1960
長谷戸小学校	5,434	1968
上原小学校	4,356	1964
神南小学校	6,548	1964
広尾中学校	7,884	1960
笹塚小学校	5,661	1961
鉢山中学校	5,849	1960
神宮前小学校	4,653	1969
富谷小学校	6,612	1964
山谷幼稚園	434	1973
本町幼稚園	417	1972
常磐松小学校	5,351	1983
渋谷本町学園	14,407	2012
上原中学校	14,100	2006
代々木山谷小学校	5,391	2015

※渋谷区学校施設長寿命化計画より抜粋

2. 資料説明（2）学校建て替えに対する考え方

STEP1～STEP4のプロセスを経た上で、以下の視点から再配置を計画する学校敷地の選定を行いました。

- i) 敷地面積：再配置される学校敷地は、相対的に大きなものとする。
- ii) 建物床面積：再配置後に、十分な校舎・屋内運動場を建設できる敷地とする。

《再配置の選定結果》

【Aブロック】原宿外苑中学校敷地に千駄谷小学校との小中一貫教育校を計画する。

【Bブロック】笹塚中学校敷地に笹塚小学校との小中一貫教育校を計画する。

【Cブロック】鉢山中学校敷地に猿楽小学校との小中一貫教育校を計画する



※渋谷区『新しい学校づくり』整備方針より抜粋

学校の「規模」と「配置」についての検討

子供の教育環境の改善を中心に据え、学校規模の適正化を優先的に検討するとともに、地域バランスや義務教育期間9年間の連続性、地域コミュニティとの関係を考慮し、以下の手順により、学校の「規模」「配置」の検討を行いました。

STEP 1 児童・生徒数の推計により、将来小規模校となる学校を抽出

- 各学校の配置状況から、区内を3ブロックに分けて検討を行いました。
また、2050年に小規模校（小学校・中学校共に12学級未満）となることが予測される学校を抽出（※）しました。

※抽出の対象外とする学校

- i) 小中一貫校 ... 渋谷本町学園
- ii) 築浅又は建替検討中の学校
... 代々木山谷小、上原中、神南小
- iii) 2050年時点で18学級以上あると予測される学校
... 神南小、幡代小、西原小、代々木山谷小



【Aブロック】千駄谷小、鳩森小、神宮前小、原宿外苑中

【Bブロック】中幡小、笹塚中

【Cブロック】臨川小、長谷戸小、加計塚小、常盤松小、
広尾中、鉢山中、松濤中

STEP 2 小規模校が適正規模となるような再配置を検討

- 小規模校と隣接する学校の組み合わせを全て抽出しました。
 - i) 同一学校種別（小学校×小学校、中学校×中学校）の統合を検討しました。
⇒ 隣接する2校、もしくは3校以上の統合
 - ii) 小学校×中学校の小中一貫校化を検討しました。
⇒ 同一の中学校区内にある小学校であり、かつ最寄りの小学校との小中一貫校化

STEP 3 再配置を行うことが適当でないと考えられる組み合わせを除外

- 以下の視点から、再配置を行うことが適当でないと考えられる組み合わせを除外しました。
 - i) 再配置により大規模校となる組み合わせ
 - ii) 再配置後に適切な通学距離を確保できない組み合わせ（小学校1.0km、中学校1.5km程度）
 - iii) 小学校と中学校の校区が整合しない小中一貫校の組み合わせ
 - iv) 地域における小学校・中学校・小中一貫校の配置が偏る組み合わせ

《検討結果》

【Aブロック】千駄谷小×原宿外苑中 【Bブロック】笹塚小×笹塚中 【Cブロック】猿楽小×鉢山中

STEP 4 再配置計画敷地の選定

- 以下の視点から、再配置を計画する学校敷地の選定を行いました。
 - i) 敷地面積：再配置される学校敷地は、相対的に大きなものとする。
 - ii) 建物床面積：再配置後に、十分な校舎・屋内運動場を建設できる敷地とする。

《再配置の選定結果》

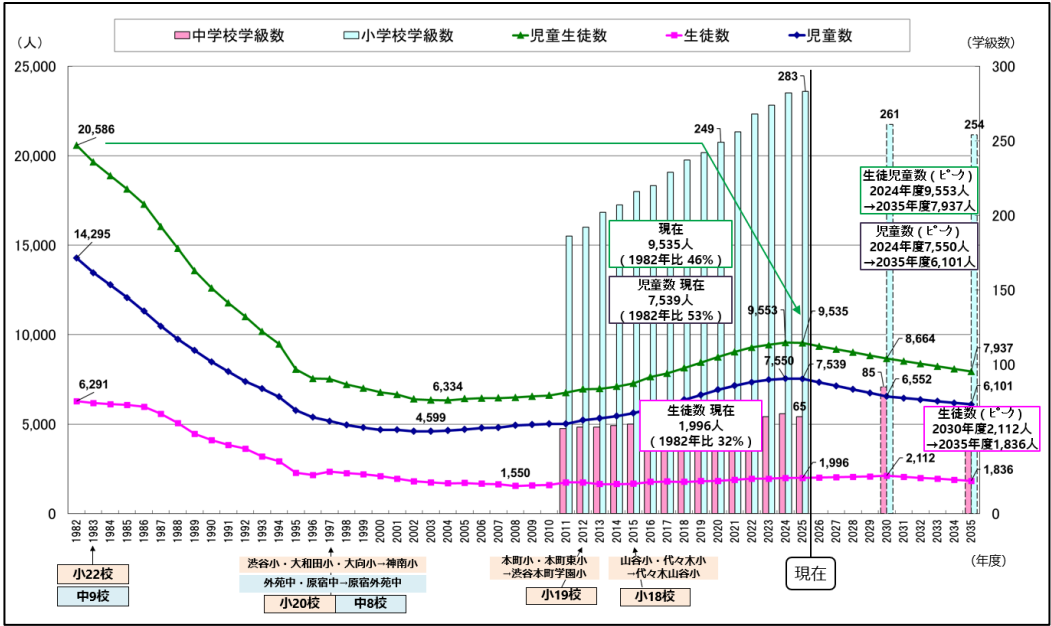
【Aブロック】原宿外苑中学校敷地に千駄谷小学校との小中一貫校を計画する。
【Bブロック】笹塚中学校敷地に笹塚小学校との小中一貫校を計画する。
【Cブロック】鉢山中学校敷地に猿楽小学校との小中一貫校を計画する。

2. 資料説明（2）学校建て替えに対する考え方

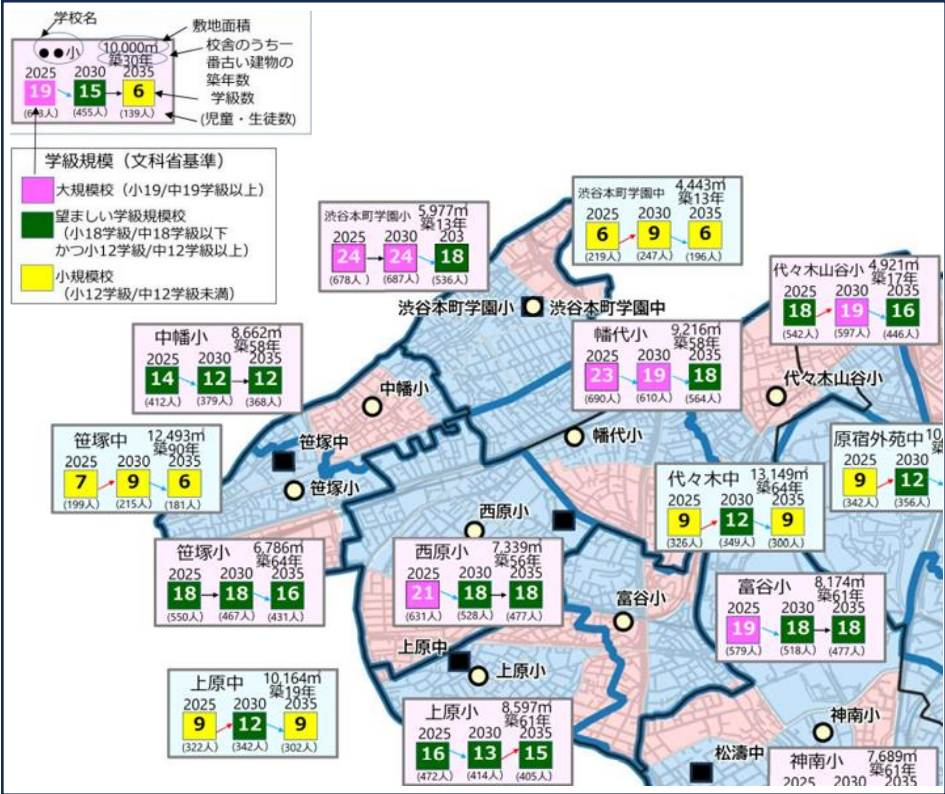
（参考）児童・生徒数、学級数の推移

渋谷区の児童・生徒数は、1982年の約2万600人から一時的には減少しましたが、2025年には約9,500人まで回復しています。一方、児童・生徒数は2024年頃をピークに、その後は減少傾向で推移すると見込まれています。なお、子どもたちの学びが多様化していること、地域コミュニティや防災拠点としての役割を学校が担っていることから、統廃合については慎重な判断が必要と考えています。

【図表3-4 児童・生徒数、学級数の推移】



【図表3-5 学校別 児童・生徒数、学級数の推移】抜粋



※渋谷区学校施設長寿命化計画より抜粋

2. 資料説明（3）新たな仮設校舎が必要な理由

再掲資料

（2）なぜ新たな仮設校舎が必要なのか

① 工期の長期化

当初3年としていた工期が、**5～6年程度に長期化**



当初計画に、現在の各校の想定工期を当てはめた場合・・・

理由1 既存校舎の使用年数が、建て替え目安の80年を超過

理由2 西原キャンパスの利用期間は、当初の15年から約28年に

2. 資料説明（3）新たな仮設校舎が必要な理由

（参考）渋谷区内の学校についての新たな工期検討結果

	西原キャンパス仮設校舎利用			代々木大山公園仮設校舎利用		
	代々木中学校	幡代小学校	西原小学校	笹塚中学校	上原小学校	富谷小学校
構造・規模	RC造 4F	RC造 5F 地下3F	RC造 3F 地下2F	RC造 5F 地下2F	RC造 4F 地下3F	RC造 4F 地下2F
想定延床面積 (㎡)	約10,000㎡	約15,000㎡	約11,000㎡	約23,000㎡	約12,600㎡	約10,700㎡
想定工期 (カ月)	36 → 60	36 → 72	36 → 60	36 → 72	36 → 60	36 → 72

※令和6年度「学校施設フィジビリティスタディ支援業務委託」の検討結果をベースに整理したものです。

2. 資料説明（3）新たな仮設校舎が必要な理由

（参考）学校案件入札情報（不調を経て、2回目以降の入札で落札に至った案件の概要）

	江東区 小名木小学校	江戸川区 一之江小学校	港区 御田小学校	北区 赤羽台西小学校	江戸川区 中小岩小学校
公告時期 ＜落札時＞	2024年10月	2024年6月	2024年7月 /12月	2025年11月	2026年6月
構造規模	RC造 4F	RC造 4F	RC造 3F 地下2F	RC・一部S造 4F	RC・一部S造 5F
延床面積 (㎡)	7,954.00㎡	7,563.48㎡	9,590.31㎡	約8,771㎡	約9,565㎡
工期 (カ月)	25 → 34	29 → 36	35 → 53	約60	54→56

※本資料の情報は一般公開情報及び有料情報を独自で調査し、データベース化した資料をもとに作成した資料です。

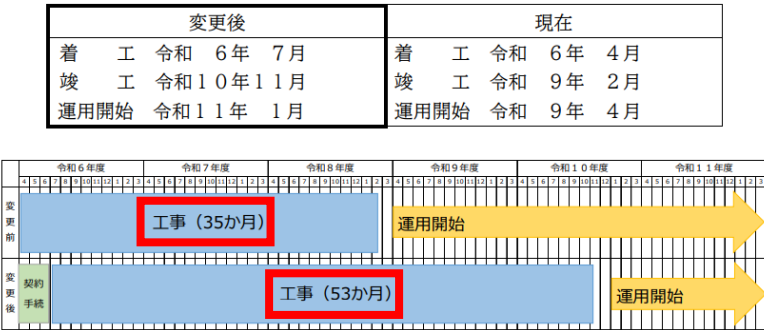
2. 資料説明（3）新たな仮設校舎が必要な理由

（参考事例）港区立 御田小学校

港区立御田小学校改築工事スケジュール及び新校舎運用開始時期の変更について

港区立御田小学校については、児童数の増加や施設の老朽化への対応のため改築することを令和2年度に決定し、これまで整備計画の策定、基本設計、実施設計を行い、令和6年4月から着工する予定で契約手続きを進めていましたが、建築工事の入札が不調となり予定どおりの着工ができなくなりました。
辞退した建設業者へのヒアリング等を行った結果、建設業における全国的に深刻な人手不足や製品納期の長期化、工事現場の4週8閉所の推進や時間外労働規制の強化により区が示した工期では受注できないことが不調理由と判明いたしました。
不調理由により工期を大きく見直す必要があることから、令和6年4月から令和9年2月までの工期を、令和6年7月から令和10年11月までに変更し、再度入札を行います。これに伴い、新校舎の運用開始時期についても、現在の予定である令和9年4月の運用開始から、令和11年1月の運用開始と大きく遅れることになります。

○御田小学校新校舎の運用開始時期の変更について
御田小学校新校舎の運用開始時期は工事スケジュールの変更に伴い、令和11年1月（3学期）からの運用開始予定とします。



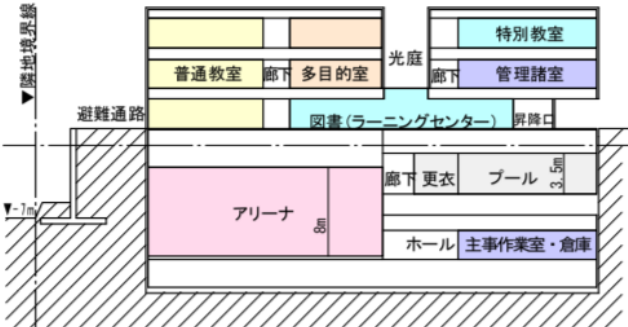
(3)敷地周辺の現況



⑥隣地側(南西側)から敷地南側を見る



⑦隣地側(南西側)から敷地南側を見る



2. 資料説明（3）新たな仮設校舎が必要な理由

再掲資料

（2）なぜ新たな仮設校舎が必要なのか

② 自校内建て替えの課題

自校内建て替え・・・ 自校運動場に仮設校舎を建設し、旧校舎の建て替え工事を行うこと

※当初想定 of 自校内建て替え校：上原小・中幡小・臨川小・加計塚小

➤ 長期間にわたる教育環境への影響

- ・ 昨今の建設市況による工期延伸が見込まれ、校庭を利用できない期間や工事騒音、振動が長期間にわたるため、教育環境への影響が更に大きくなる

➤ 新校舎計画に生じる制約

- ・ 限られた敷地に仮設校舎を建てると、新校舎を建てる面積が制限されることで、十分な新校舎規模を確保しにくい

理由3 自校内建て替えが困難

2. 資料説明（3）新たな仮設校舎が必要な理由

再掲資料

（2）なぜ新たな仮設校舎が必要なのか

検討により見えてきた主な課題（西原地区）

- 理由1 既存校舎の使用年数が建て替え目安の80年を超過（笹塚中学校・富谷小学校）
- 理由2 西原キャンパスの仮設校舎利用期間 当初15年から約28年に
- 理由3 自校内建て替え困難（中幡小学校、上原小学校）

課題への対応の為に、新たな仮設校舎を検討

1. 広尾小学校の学校プール跡地に仮設校舎を整備する
2. 臨川小学校の新校舎を大きく作り、他校の仮設校舎として使用する
3. 代々木大山公園の一部に仮設校舎を建設する
4. 笹塚小学校の既存校舎を仮設校舎として使用する

西原地区は、敷地規模・通学距離をふまえ、
「代々木大山公園」と「笹塚小学校」を候補地として整理

※この2つの候補地の整理検討については次のページにてご説明します。

2. 資料説明（４）代々木大山公園への仮設校舎整備が必要な理由

再掲資料

（３）なぜ代々木大山公園なのか

候補地整理に当たっての主な判断項目

1. 仮設校舎と必要な学校機能を確保できる敷地規模があるか
2. 利用校の児童・生徒の通学負担が過度にならないか
3. 西原地区全体の建て替え工程の平準化に資するか

候補地

・代々木深町小公園

→仮設校舎と必要な学校機能を確保する敷地規模が不足かつ不整形

・代々木大山公園

→一定の敷地規模があり、利用校との位置関係も比較的近く、西原地区の建て替え工程の平準化に資する候補地として整理

・笹塚小学校

→候補地の一つとして整理したが、上原小学校・富谷小学校にとって通学負担が大きくなることが課題

・その他の候補地

→仮設校舎と必要な学校機能を確保する敷地規模が不足又は通学距離に課題があり候補外

2. 資料説明（4）代々木大山公園への仮設校舎整備が必要な理由

渋谷区内においては、学校用地に適した十分な広さの敷地が限定されます。

※学校用地として7,000㎡以上の敷地面積を確保できることが望ましい

地区名	公 園 名	位 置	面積	土 地 所有別	便所 設置	開園年月日
上 原	富ヶ谷しだれ桜 公 園	富ヶ谷一丁目 32-26	274	区		令和 4. 3.28
	代々木深町小 公 園	富ヶ谷一丁目 54-1	5,243	国	◎	昭和52. 4. 1
	富ヶ谷三本杉 〃	富ヶ谷二丁目 2-13	1,759	区	◎	平成24. 4.23
	富ヶ谷 〃	富ヶ谷二丁目 15-15	703	〃	○	昭和25.10. 1
	富ヶ谷二丁目 児童遊園地	富ヶ谷二丁目 30-2	369	〃		〃 62. 4. 1
	富ヶ谷 〃	富ヶ谷二丁目 45-6	223	〃		〃 41. 4. 1
	上 原 〃	上 原一丁目 45-3	344	〃		〃 39. 4.13
	上原二丁目 〃	上 原二丁目 6-4	237	〃	○	平成 4. 4. 1
	上 原 公 園	上 原三丁目 13-10	977	〃	◎	昭和48.12.25
	上原三丁目 児童遊園地	上 原三丁目 44-8	129	〃		〃 49. 6.10
西 原	西原一丁目 公 園	西 原一丁目 29-1	3,392	区・民	◎	〃 61. 4. 1
	西原せせらぎ 〃	西 原一丁目 40-50	1,733	区・国		平成12. 4. 1
	代々木西原 〃	西 原一丁目 47-8	3,306	区	○	昭和39.10.13
	玉川上水旧水路西原 緑 道	西原一丁目・二丁目地内	7,461	都		平成 8. 4. 1
	西原どんぐり 公 園	西 原二丁目 25-1	209	区		〃 16. 4.20
	西原いこい 〃	西 原二丁目 41-6	106	〃		〃 9. 3. 1
	西原二丁目 児童遊園地	西 原二丁目 46-1	197	〃	○	〃 6. 4. 1
	代々木大山 公 園	西 原二丁目 53-1	15,096	〃	◎	昭和25.10. 1
	西 原 児童遊園地	西 原三丁目 11-10	100	国		昭和26. 3. 1
	玉川上水旧水路大山 緑 道	大 山 町地 内	4,484	都	○	平成 8. 4. 1
	大 山 児童遊園地	大 山 町6 - 8	536	区・国	○	平成 7. 4. 1
	玉川上水旧水路幡ヶ谷 緑 道	幡ヶ谷一丁目地内	5,771	都		〃 8. 4. 1



出典：渋谷区勢概要2025

2. 資料説明（4）代々木大山公園への仮設校舎整備が必要な理由

地区名	公 園 名	位 置	面積	土 地 所有別	便所 設置	開園年月日
笹 塚	玉川上水旧水路笹塚緑道	笹塚一丁目地内	2,076	都	◎	〃 8. 4. 1
	笹塚一丁目児童遊園地	笹塚一丁目27-3	374	区		昭和50. 4. 1
	十三号通り公園	笹塚二丁目32-8	1,417	〃	○	〃 53.10. 5
	笹塚東〃	笹塚二丁目46-4	825	〃	○	平成 3. 4. 1
	九号通り〃	笹塚二丁目49-3	622	〃		昭和53.10. 5
	笹塚児童遊園地	笹塚三丁目2-9	390	区・都	○	〃 48. 7. 1
	笹塚公園	笹塚三丁目36-6	1,480	区	○	〃 47. 4. 1
	笹塚北児童遊園地	笹塚三丁目46-13	522	〃	○	〃 35. 5.31
	幡ヶ谷駅前公園	幡ヶ谷一丁目2-1	675	民		〃 62. 4. 1
	幡ヶ谷第一〃	幡ヶ谷一丁目11-2	988	区	◎	〃 39.10.13
	幡ヶ谷児童遊園地	幡ヶ谷二丁目1-22	573	都		〃 47. 4. 1
	幡ヶ谷第四〃	幡ヶ谷二丁目6-2	336	区		平成 2. 4. 1
	幡ヶ谷二丁目〃	幡ヶ谷二丁目39-8	111	〃		昭和60. 6.22
	幡ヶ谷ひだまり公園	幡ヶ谷二丁目42-6	2,347	〃	◎	平成30. 3.30
	六号通り児童遊園地	幡ヶ谷二丁目49-1	150	都		昭和61. 4. 1
	六号通り公園	幡ヶ谷二丁目50-6	179	区	○	〃 53.10. 5
	七号通り〃	幡ヶ谷二丁目53-5	1,031	〃	◎	〃 53.10. 5
	六号坂上〃	幡ヶ谷三丁目1-1	379	〃		平成20. 4.11
	幡ヶ谷第三〃	幡ヶ谷三丁目36-8	2,001	〃	◎	昭和57. 3. 1
	幡ヶ谷第二〃	幡ヶ谷三丁目38-2	1,099	〃	○	〃 38. 4.25
	幡ヶ谷新道〃	幡ヶ谷三丁目56-10	1,083	〃	◎	〃 37.10.12



出典：渋谷区勢概要2025

2. 資料説明（４）代々木大山公園への仮設校舎整備が必要な理由

再掲資料

（３）なぜ代々木大山公園なのか

通学距離の考え方

【通学距離の目安】

小学校： 概ね1.0km以内

中学校： 概ね1.5km以内

		代々木大山公園		笹塚小学校敷地	
笹塚中	候補地から学校の距離	0.73km	○	対象外 ※1	
	候補地から学区内の最長距離	1.40km			
	甲州街道（国道）の横断	有			
上原小	候補地から学校の距離	0.65km	○	1.35km	×
	候補地から学区内の最長距離	1.20km		2.10km	
	甲州街道（国道）の横断	無		有	
富谷小	候補地から学校の距離	1.03km	○	2.01km	×
	候補地から学区内の最長距離	1.70km		2.60km	
	甲州街道（国道）の横断	無		有	
中幡小	候補地から学校の距離	1.00km	×	0.60km	○
	候補地から学区内の最長距離	1.40km		1.00km	
	甲州街道（国道）の横断	有		無	

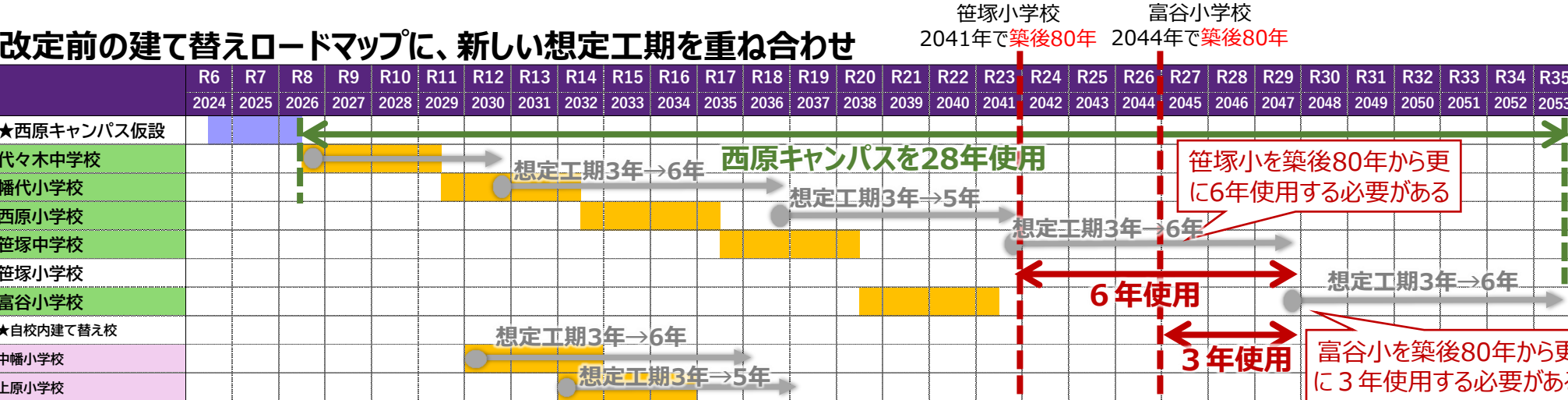


【参考】 検討図

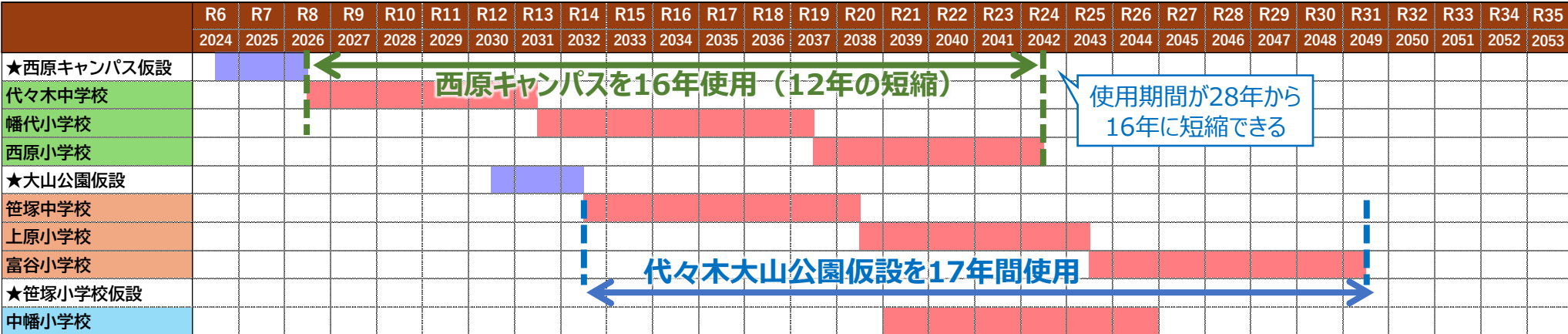
※1 笹塚小中一貫校となった後の使われなくなった小学校跡地を仮設校舎として利用する計画のため、一貫校化前の小学校を仮設校舎としては利用できません。

2. 資料説明（4）代々木大山公園への仮設校舎整備が必要な理由

代々木大山公園に仮設校舎を整備する事で、**西原キャンパスの使用期間を28年から16年に短縮**できます。
また、改定前のロードマップでは、**笹塚小学校・富谷小学校**では築80年を超えて校舎を使用する必要がありましたが、仮設校舎の整備により、**築80年以降の校舎の使用を避けて建て替えを実施することができます。**

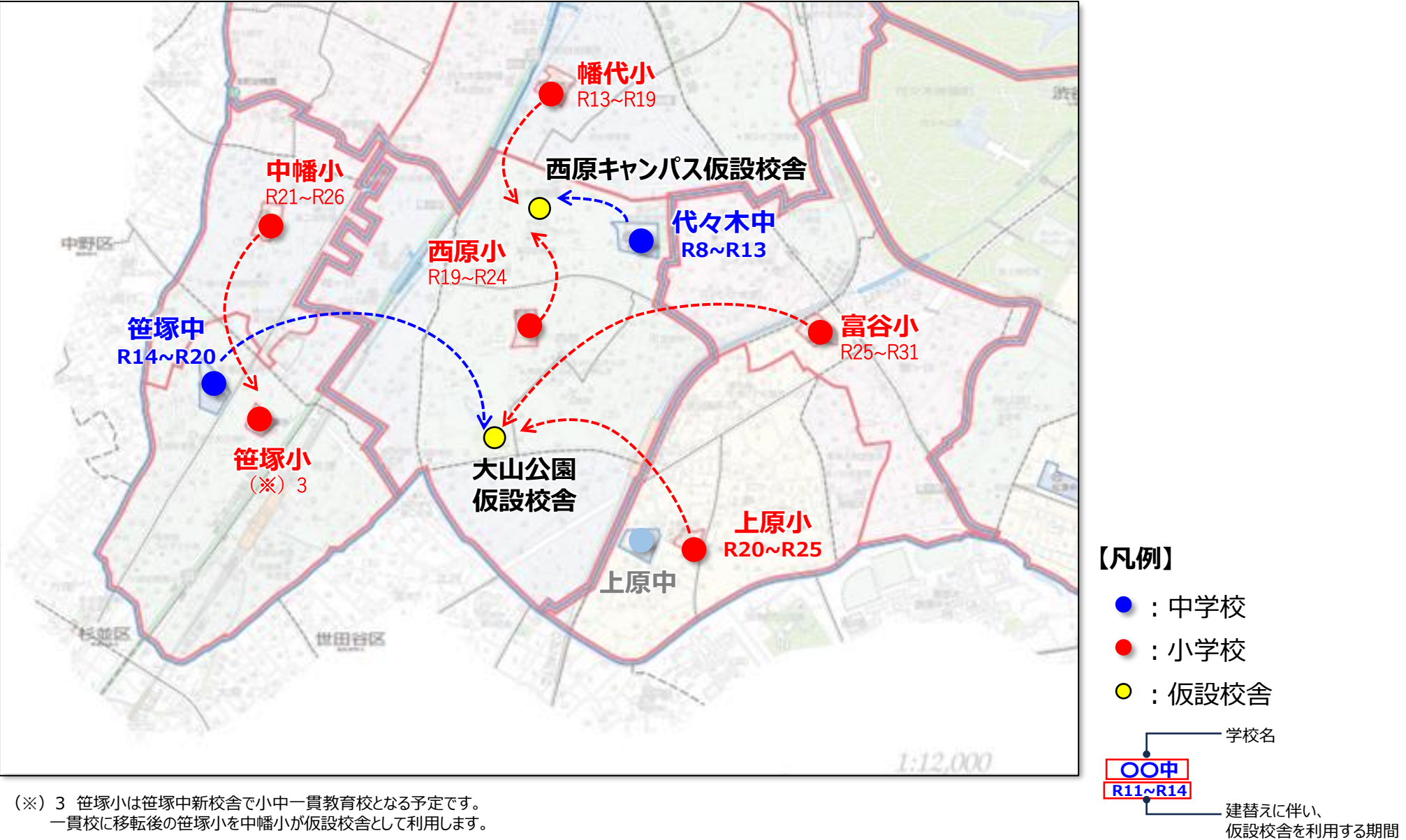


改定後の建て替えロードマップ



【凡例】 : 工事想定期間（仮設校舎） : 当初の想定工事期間 : 新しい想定工事期間

2. 資料説明（4）代々木大山公園への仮設校舎整備が必要な理由



2. 資料説明（5）公園機能維持の考え方について

現在の主な公園機能の整理



園路（ランニングコース）



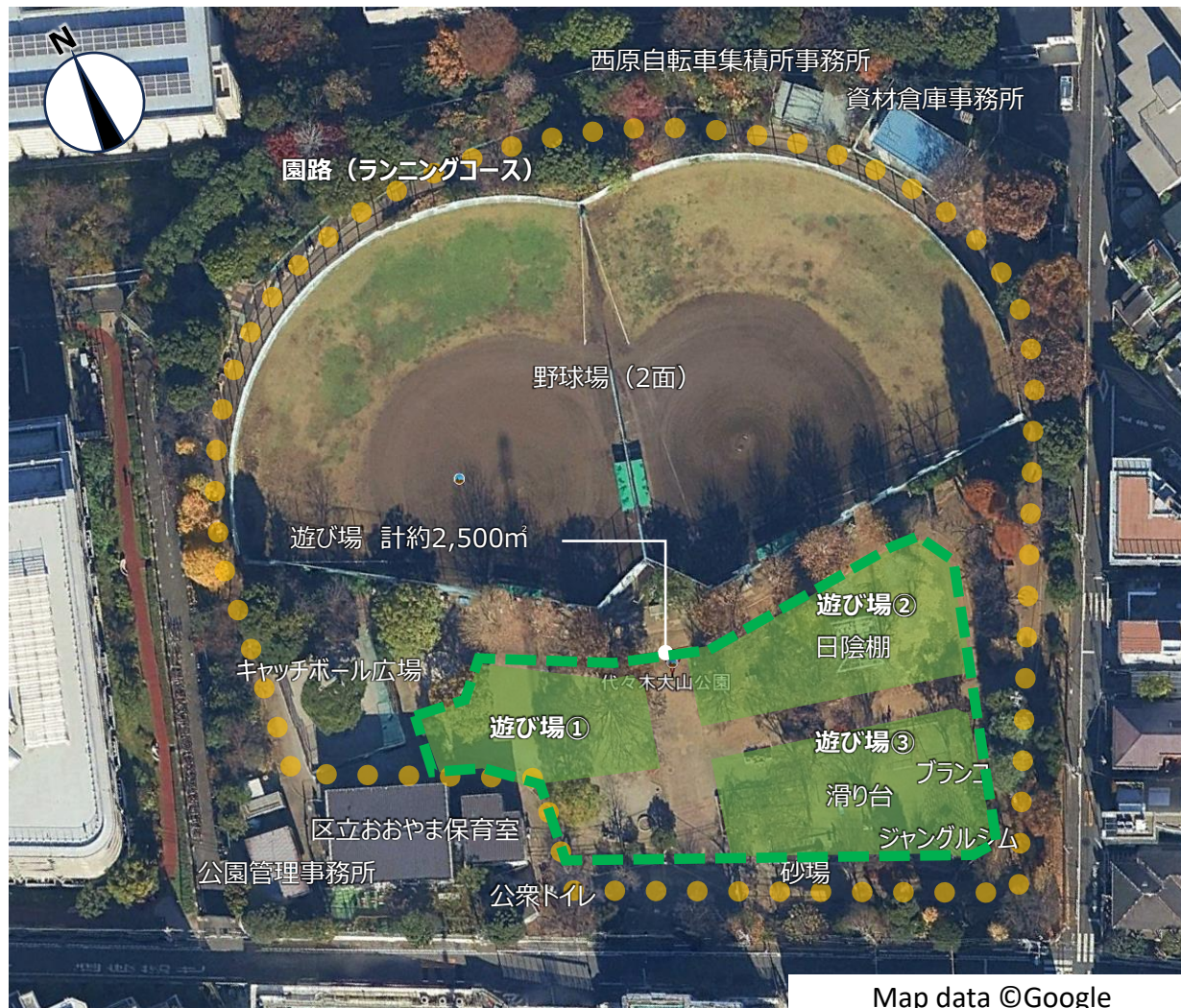
緑地（公園南側入り口）



遊び場①



遊び場②（日陰棚）



遊び場③（ブランコ）



遊び場③（ジャングルジム）



遊び場③（滑り台）



遊び場③（砂場）

2. 資料説明（5）公園機能維持の考え方について

仮設校舎建設に伴う公園機能への影響を踏まえ、以下の機能維持策を検討しています。

公園機能		仮設校舎建設による影響	公園機能維持の考え方
遊び場 ①		屋外の遊び場面積の減 (現況 計約2,500㎡→約1,300㎡) 設置できる遊具の数、種類の減	・野球場を人工芝化することで、ボール遊びや、自由な運動ができる 全天候型の広場として計画
遊び場 ②	日陰棚		・仮設校舎 1 階に 一般開放・地域開放諸室を配置 ・教育活動に支障がない夜間や、休日の 体育館の開放
遊び場 ③	砂場		・既存の遊具は現行の安全基準を満たしていない可能性がある為、代替となる インクルーシブ遊具を配置 ・多様な子ども達にとって安心・安全な遊び場を計画 ※インクルーシブ遊具とは、年齢・性別・文化・個性を気にせず誰もが楽しく安心して利用できる遊具のことです。
	滑り台		
	ジャングルジム		
	ブランコ		
園路 (ランニングコース)		周回距離の減 (現況 約500m→約300m)	・1 周 約300mのランニングコースを確保
緑地		仮設校舎に干渉する部分の伐採や移植	・ 既存同等の緑地面積を確保することを前提 とし、健全な樹木については移植を検討

2. 資料説明（5）公園機能維持の考え方について

野球場の開放方法の変更案（仮設校舎開校後）

【現状モデル】 9:00～17:00

		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
A面	午前	休場 (長期休暇中のみ開館)	予約優先	予約優先	予約優先	予約優先	少年野球利用	少年野球利用
	午後		遊び場開放(※)	少年野球利用	遊び場開放(※)	遊び場開放(※)		
B面	午前		予約優先	予約優先	予約優先	予約優先		
	午後		遊び場開放	遊び場開放	遊び場開放	遊び場開放		

(※)当日に団体予約が入っていない場合は開放

【令和7年度稼働率】

土曜日：82.4% 日曜日：84.3% 水曜日(A面)：81.9% 予約優先(水曜日以外)：約4%～13%



【開校後モデル】 9:00～17:00

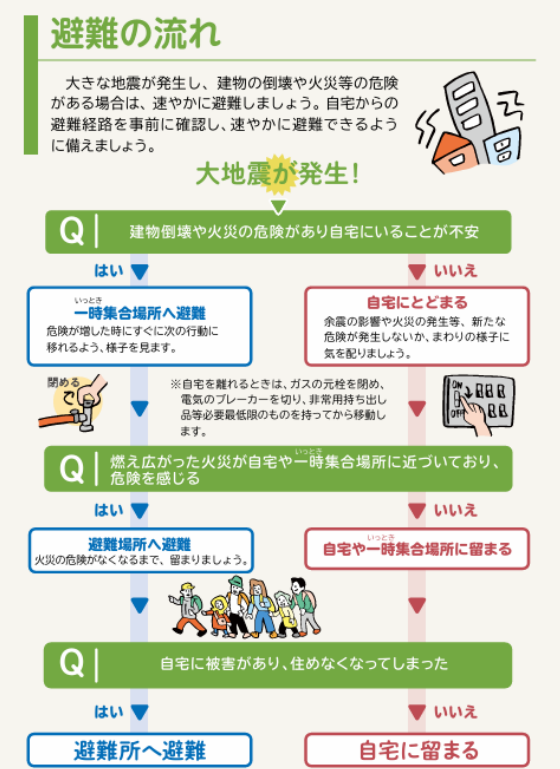
		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
A面	午前	校庭利用	校庭利用	校庭利用	校庭利用	校庭利用	少年野球利用	少年野球利用
	午後	校庭利用	校庭利用	校庭利用	校庭利用	校庭利用		
B面	午前	遊び場開放	遊び場開放	少年野球利用	遊び場開放	遊び場開放		
	午後	遊び場開放	遊び場開放		遊び場開放	遊び場開放		

※上記時間以外の早朝・夜間、野球利用されていない時間帯での遊び場(広場)開放については、安全性や運用面、また、ご近隣の皆様からのご意見を踏まえ、今後検討してまいります。

2. 資料説明（5）公園機能維持の考え方について

渋谷区内の避難機能については、下記の通り区分されています。

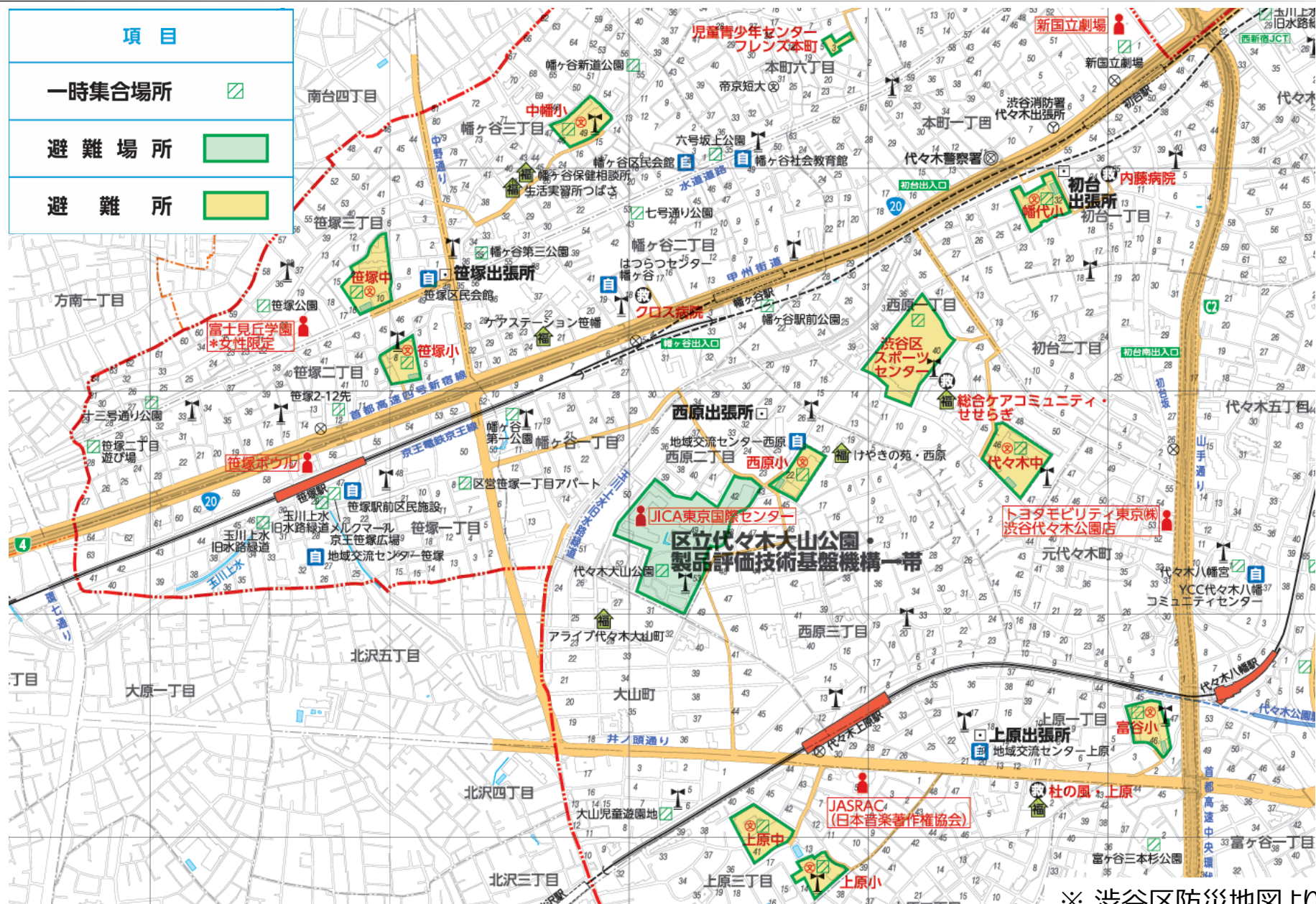
区分	主な役割	指定	位置づけ・代表例
避難場所	一時集合場所よりも広い場所で、延焼火災等から命を守るための場所	東京都	公園等（区内9カ所）
一時集合場所	発災直後、周囲の状況を見極めるため、一時的に避難する場所	渋谷区	学校校庭、近隣公園
避難所	被災後の生活拠点	渋谷区	区立小中学校、公共施設



代々木大山公園は、製品評価技術基盤機構 一帯とともに「避難場所」として指定されているほか、区が指定する「一時集合場所」に該当します。

仮設校舎利用中も野球場2面を維持することにより、広い空間を確保することができ、避難場所及び一時集合場所の機能を確保できると考えております。

2. 資料説明 (5) 公園機能維持の考え方について



※ 渋谷区防災地図より抜粋

2. 資料説明（5）公園機能維持の考え方について

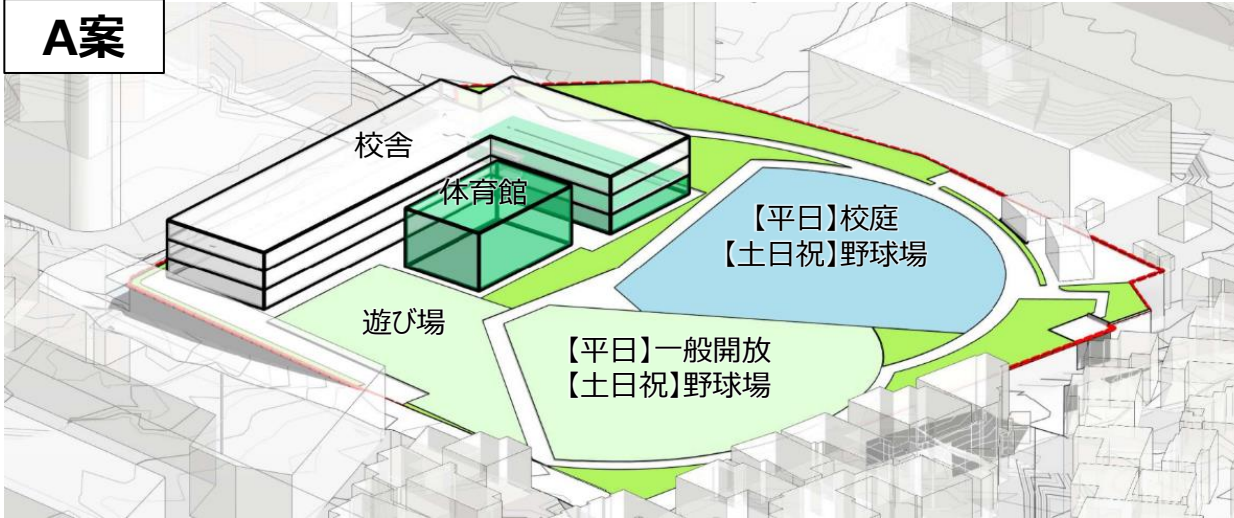
再掲資料

			A案	B案	C案	D案
イメージ						
			：公園出入口 ：校舎出入口 ：人工地盤			
公園計画の特徴			野球場位置の大幅な見直し	野球場は現況と同じ位置に計画	野球場位置の大幅な見直し	野球場位置の大幅な見直し
校舎運用面			校舎と公園の入口が干渉している	—	—	車両動線について検討が必要
工期への影響			★★ 現状から土地利用が大きく変わるためB案と比べ工期が長くなる	★★★ 4案の中で最も工期が短い	★★ 現状から土地利用が大きく変わるためB案と比べ工期が長くなる	★★ 現状から土地利用が大きく変わるためB案と比べ工期が長くなる
住環境	景観・視線	東	★★★ 野球場を介した配置となるため景観への影響は小さく、見合いの機会も少ない	★★★ 公園を介した配置となるため景観への影響は小さく、見合いの機会も少ない	★ 仮設校舎の長辺が面するため景観への影響があり、見合いの機会も増える	★★ 仮設校舎の短辺が面するため景観への影響はあるが、見合いの機会も少ない
		南	★★ 仮設校舎の短辺が面するため景観への影響はあるが、見合いの機会も少ない	★ 仮設校舎の長辺が面するため景観への影響があり、見合いの機会も増える	★★ 仮設校舎の短辺が面するため景観への影響はあるが、見合いの機会も少ない	★★★★ 野球場を介した配置となるため景観への影響は小さく、見合いの機会も少ない
	音の影響	東	★ 学校活動及び公園活動の音の影響がある	★★★ 現状から大きな変化なし	★★★★★ 校舎で遮蔽されるため、公園活動の音は小さくなる可能性がある	★★ 公園活動の音の影響がある
		南	★★ 公園活動の音の影響がある	★★★★★ 校舎で遮蔽されるため、公園活動の音は小さくなる可能性がある	★★ 公園活動の音の影響がある	★ 学校活動及び公園活動の音の影響がある
	日影	東	★★★★ 現状から大きな変化なし	★★★★ 現状から大きな変化なし	★ 季節を問わず影響あり	★★ 季節と時間帯により一部影響あり
		南	★★★★ 現状から大きな変化なし	★★★★ 現状から大きな変化なし	★★★★ 現状から大きな変化なし	★★★★ 現状から大きな変化なし
防災	敷地へのアクセス		★★★ 現状から大きな変化なし	★★ 南側の動線に一部影響あり	★★ 東側の動線に一部影響あり	★★★★ 現状から大きな変化なし

2. 資料説明 (5) 公園機能維持の考え方について

※本資料は現時点でのイメージを示すものであり、計画内容を確定するものではありません。今後の検討状況により、内容が変更となる可能性があります。

A案



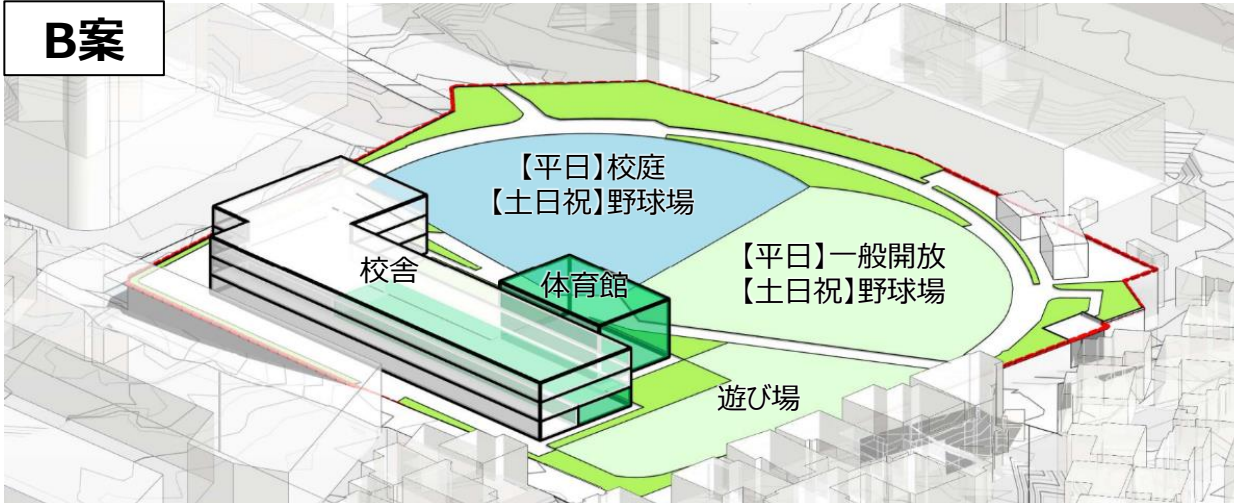
配置イメージ (案)



1階イメージ (案)



B案



配置イメージ (案)



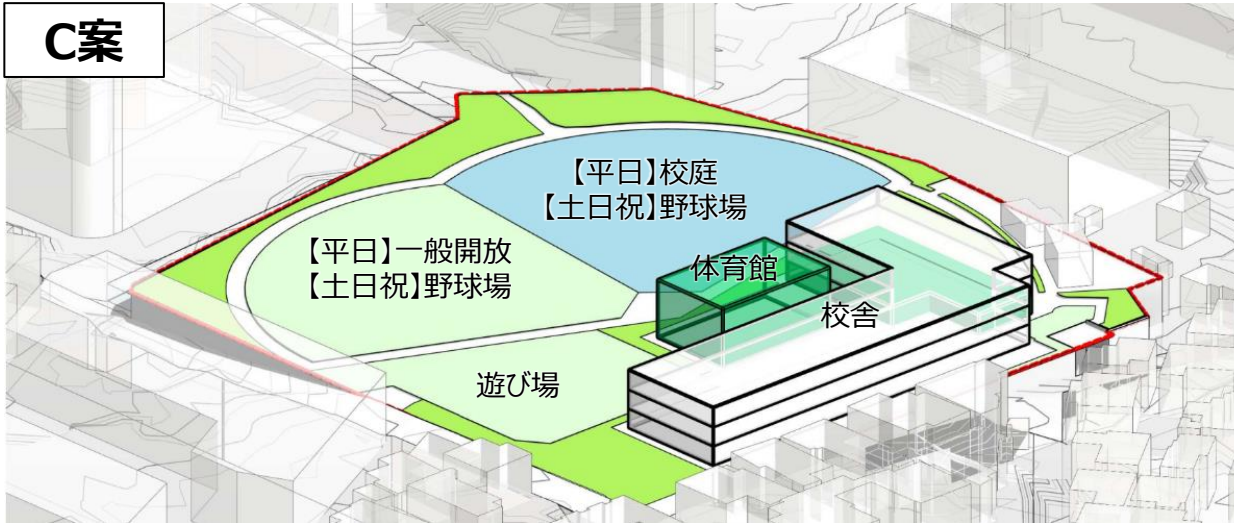
1階イメージ (案)



2. 資料説明 (5) 公園機能維持の考え方について

※本資料は現時点でのイメージを示すものであり、計画内容を確定するものではありません。今後の検討状況により、内容が変更となる可能性があります。

C案

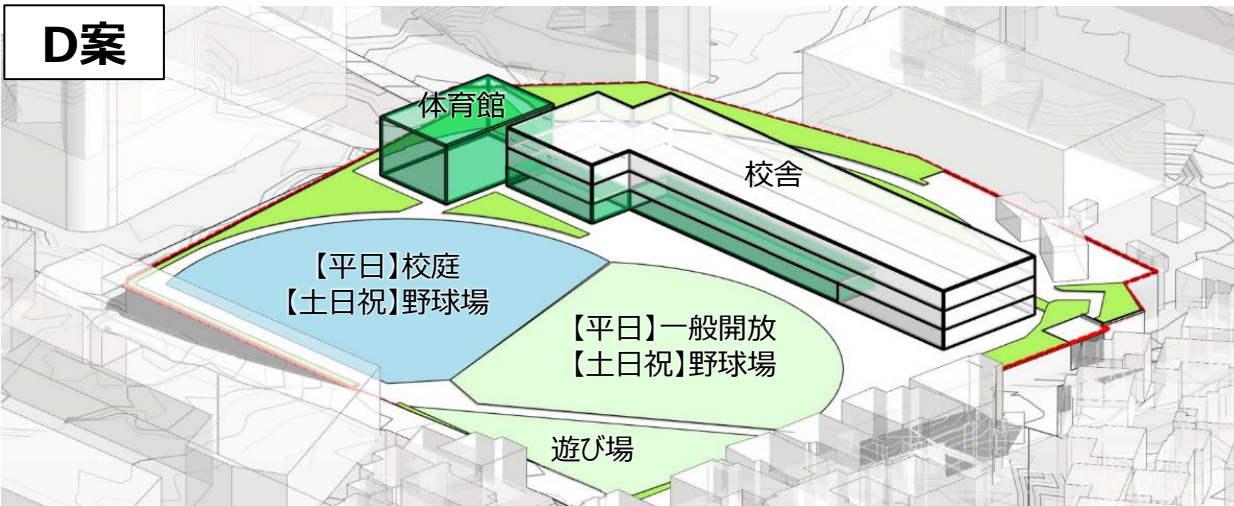


配置イメージ (案)



1階イメージ (案)

D案



配置イメージ (案)



1階イメージ (案)

4. 今後のスケジュール

第3回：令和8年8月8日(土) 14時00分～16時00分 予定

第4回：未定

第5回：未定

※第3回以降のご案内は改めてご近隣の皆様に開催案内文を配布させていただくと共に、代々木大山公園内にも「お知らせ」を掲出いたします。

お問い合わせ先

○計画に関すること

教育委員会事務局 教育政策課 学校施設整備第一係～第三係

電 話： 03-3463-2795

メール： sec-gakko-seibi@shibuya.tokyo